9 TOWNS TOPICS

9つのまちのホットな話題をお届けします

目標に狙い定めペタンク大会

「第17回豊里町シニアスポーツ大会ペタンク大会」（豊里町老人クラブ連合会主催、飯田功会長）は7月21日、鴇波ゲートボール場で開かれ、町内の老人クラブから21チーム、110人が参加しました。

ペタンクは、南フランス発祥の球技で、6から10㍍先の目標球「ビュット」を狙って金属製の球を投げ合い、相手よりも何個ビュットへ近づけるかを競うゲームです。参加者らは一投ごとに一喜一憂し熱戦を繰り広げました。

防災力を強化し水害に備える

「令和３年度登米市水防訓練」は７月４、11の両日、宮城県迫川防災ステーション（米山町西野字西野前地内）で実施され、登米市消防団（菅原英義団長、団員1311人）の団員80人が参加しました。

訓練は、近年大規模化する水害に対応するために実施。消防団米山支団からは７月４日午後の部に団員９人が参加し、市消防士からの指導を受けながら土のう作成や土のうを使った水防工法訓練に励みました。

不審者への注意促す街頭指導

「防犯呼びかけ並びに自転車安全点検」（迫地区防犯指導隊主催、菅原精一隊長）は7月14日、佐沼高校（狩野秀明校長、生徒692人）正門前で実施され、佐沼高生ほか関係者約20人が参加しました。

防犯呼び掛けは、市内で不審者による声掛け事案などが多数発生していることから啓発活動の一環として実施。のぼり旗などを使用して登校する生徒に不審者や自転車の盗難に気を付けるよう呼び掛けました。

若者の発想力を地域づくりに

「若者井戸端会議」（石越コミュニティ運営協議会主催、菅原健一会長）は７月２日、石越公民館で開かれ、石越出身者や在住者15人が参加しました。

会議は、気軽な気持ちで話し合いながら、若者の発想でこれからの石越地区の在り方を考えることが目的。参加者はグループごとに地域の課題や観光資源の発見、新しい地域おこしのイベントのアイデアを出すなど、石越地区の将来について熱の入った意見を交換し合いました。

爽やかな若さに溢れる運動会

「登米中学校運動会」は7月10日、登米中学校（飯川弘芳校長、生徒96人）で開かれ、全校生徒が参加しました。

運動会は、全校生徒が赤青の二つの組に分かれ、リレーや綱引き、応援合戦などで競い合ったほか、とよま囃子を披露しました。競技を通じて、相手に負けまいとする一生懸命な姿や仲間の健闘を思う声援から熱意や若々しい友情が伝わってきました。とよま囃子の披露では、全校生徒が団結した演技を披露しました。

地域への感謝込めて清掃活動

「地域美化活動」（南方ナーシングホーム翔裕園主催、佐々木亀一郎施設長）は７月16日、砥落地区において実施され、同施設職員10人が参加しました。

同施設は昨年開園15周年を迎え、記念行事として各種の地域イベントを企画。コロナ禍でイベントが中止となったことから、今春から地域への奉仕活動をしています。参加職員は「地域の皆さんに支えられていることへの感謝として、さまざまな形で恩返しを続けたい」と話しました。

魚釣りは難しいけど楽しいね

「川釣り教室」（米川地域振興会主催、佐藤裕孝会長）は７月５日、二股川と綱木沢川で開かれ、米川小学校（鈴木淳校長、児童67人）の児童15人が参加しました。

教室は、地域資源に触れ、地元へ愛着を持ってもらうことを目指した米川愛着プロジェクトの一環として実施。初めはなかなか釣れずに我慢が続きましたが、魚が釣れるたびに子どもたちから歓声が上がりました。子どもたちは「釣りは難しいけど、楽しかったです」と笑顔を見せました。

フィールドワークで防災学ぶ

「津山中学校防災学習フィールドワーク」（千坂佳織校長、生徒84人）は７月14 日、町内各地区において開かれ、同生徒84人と行政区長など約20人が参加しました。

同授業は平成21年台風第18号や令和元年東日本台風などにより発生した洪水被害に対する防災教育として、地域と生徒が連携して取り組んでいます。生徒たちは「どこから水がきたのですか」、「当日はどんな様子でしたか」など真剣に聞き取りし防災マップを作製しました。

交通死亡事故ゼロ継続目指す

宝江地区の「交通死亡事故抑止功労表彰」は７月２日、迫公民館で開かれ、登米市交通安全対策協議会と佐沼警察署から宝江コミュニティ運営協議会（千葉光夫会長）に褒状が贈られました。

同地区は、７月１日に交通死亡事故ゼロ3500日を達成。千葉会長は「表彰されたことは関係する皆さんの大きな励みになる。今後も交通死亡事故ゼロを交通安全の柱とし、新たな気持ちで努力していく」と述べました。